

田原市博物館テーマ展

「昭和が始まって 100 年 戦争が終わって 80 年展」を開催します

今からおよそ 100 年前となる 1926 年 12 月 25 日、大正天皇の崩御によって昭和時代が始まりました。

昭和の 64 年間は、長い日本の歴史の中でも特に激しい時代の変化を伴うものでした。昭和初期の不況や恐慌、戦後の混乱と復興、さらに高度成長に伴う人々の仕事や生活様式の変容は、他の時代には類をみないものでした。そして満洲事変から太平洋戦争の敗北まで、15 年にも及んだ戦争は、生死を含めて人々の運命を揺さぶるものでした。

もちろん、それは日本の一地方である渥美半島にも大きな影響を及ぼしました。本テーマ展では、主に当館に残されたありし日の昭和のモノを展示しつつ、当時の姿をたどってみたいと思います。ぜひ、取材いただきご紹介ください。

1 開催概要

開催期間 8 月 2 日(土)～9 月 28 日(日)

会場 田原市博物館 企画展示室 1、2

開館時間 午前 9 時～午後 5 時(入館は午後 4 時 30 分まで)

休館日 毎週月曜日(8 月 11 日、9 月 15 日は開館)

8 月 12 日(火)・9 月 16 日(火)

観覧料 大人 310 円(240 円)、小中学生 150 円(100 円)

※1 () 内は 20 人以上の団体料金

※2 東三河在住・在学の小中学生は、ほの国こどもパスポート提示で観覧料無料

2 イベント

(1) 紙芝居『前日物語』上演(要観覧料、申込不要)

日時 8 月 10 日(日) 11:00～、14:00～

会場 田原市博物館 ロビー

前日の会(代表:彦坂久伸氏)による渥美線電車機銃掃射の紙芝居を上演します。

(2) ギャラリートーク(要観覧料、申込不要)

日時 8 月 16 日(土)、9 月 7 日(日)

午後 1 時 30 分～(一般向け)

【展示内容を少し紹介】

1 昭和が始まって100年

「少し前」と思っていた昭和時代も過ぎ去って既に36年。この地域に残された昭和の少し懐かしいものをご紹介します。



平成始めまではどの家庭にもあった黒電話。ダイヤルがなかったころを覚えている方はいらっしゃるでしょうか？



どの家庭にも常備されていた薬箱。越中富山の薬売りが自宅を訪問し、足りない薬を補充してきました。箱の下部に補充表が見えます。

2 戦争が終わって80年

近代の戦争の特徴は、全ての国民を否応なしに巻き込んでいくことにあったでしょう。渥美半島の人々がどのように戦争と直面しどのように立ち向かったのか、主に個人の視点から紹介します。



伊良湖射場内のトロッコで移動する作業員たち
軍事施設が地元でできることで生まれる迷惑は大きいですが、地元で雇用をもたらすことにもつながります。伊良湖射場と人々の写真等を展示します。



パラシュート収納袋
見た目は地味な資料ですが、田原市豊島町出身の持ち主だった男性が、零戦や紫電改などの戦闘機のパイロットとして各地を転戦し、生き残った証でもあります。

紙芝居『前日物語』上演

太平洋戦争末期の1945（昭和20）年8月14日、三河田原駅を出た渥美線の電車は、突然のアメリカ軍戦闘機の攻撃にあい、多くの死傷者を出しました。このできごとは、戦後の長い間あまり知られていませんでしたが、「前日の会」のメンバーの関係者への聞き取り調査により、多くの真相が明らかになりました。さらに戦闘機の姿を目撃した彦坂昭市さん（1931-2022）によって作られた紙芝居が「前日物語」です。この紙芝居を8月10日に「前日の会」のメンバーによって田原市博物館で上演します。あわせてご取材ください。



▲生前の彦坂昭市さんによる紙芝居の上演。2020（令和2）年、「前日の会」提供
彦坂さんの地元の言葉をそのまま使用した語り口は、とても実感のこもったものでした。豊橋ケーブルネットワークがYouTubeにアップした映像で現在も見るができます。



▲「前日の会」による小学生向けの紙芝居の上演 同会提供